

平成 20 年
2 月 28 日

病害虫発生予報 3 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

． 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ナシ：黒星病	1
果樹共通：果樹カメムシ類	1
イチゴ：コナジラミ類	2
施設野菜（イチゴ，ピーマン，トマト，キュウリ）：灰色かび病	2

【その他の病害虫】	3
イチゴ，促成・半促成ピーマン，促成キュウリ，メロン，春レタス	

． 病害虫ミニ情報

水稻の育苗中に発生する病害の対策について	4
----------------------	---

． 今月の気象予報	5
-----------	---

． テレホンサービス	5
------------	---

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 20 年 2 月 20 日現在のものです。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・今月の予報
【注意すべき病害虫】

ナシ

1. 黒星病
[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

昨年 10 月中旬の調査で、ナシ黒星病秋型病斑の発病度及び発生地点率は過去 7 年間と比べてやや高く、また 10 月 6 半旬にまとまった降雨があったことから、ナシ黒星病菌の越冬量は平年よりやや多いと予想される。
気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

園内に落葉が残っている場合は落葉を集め、土中深く埋めるなど適切に処分する。りん片の病斑は葉や幼果への伝染源となるため、見つけ次第除去し、落葉と同様に処分する。
催芽～萌芽期に薬剤防除を行う。散布は、十分な薬液をかけむらのないよう丁寧に行う。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
(平成 19 年 10 月 16 日発表の病害虫情報 No.12 参照)

果樹共通

1. 果樹カメムシ類
[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い(越冬成虫)	県下全域

[予報の根拠]

昨年、秋のヒノキにおける果樹カメムシ類の越冬前の成虫数は平年よりやや多い。
本年 2 月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査では、越冬成虫は平年よりやや多く、越冬成虫が確認された地点率は平年よりやや高い(表 1)。

[防除上注意すべき事項]

越冬成虫は、4 月頃から活動を開始し、年によっては 5 月頃から果樹園へ飛来してウメやナシの幼果を加害する。越冬成虫の活動状況については、病害虫防除所の最新の情報を確認し、防除の参考にする。
多目的防災網(6mm 目以下あるいは 9mm クロス目以下)を張るなどの物理的な防除対策が有効であるので、早めの展開を心がける。(平成 20 年 2 月 26 日発表の病害虫情報 No.13 参照)

表 1 山林の落葉中におけるチャバネアオカメムシの越冬成虫数及び発生地点率

年	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
越冬成虫数(頭) ^{注1)}	1.3	1.5	0.2	12.2	0.3	2.3	0.2	0.1	13.1	0.1	2.9
発生地点率(%) ^{注2)}	55	37	11	75	22	48	10	7	74	10	55

注 1) 落葉 30 リットルあたりの平均虫数

注 2) 越冬成虫を確認した地点の割合(%)

イチゴ

1. コナジラミ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されることから，発生をやや助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となるため，初期防除を徹底する。

コナジラミ類は葉裏に寄生するため，薬液は下方から吹き上げるように散布する等，葉裏にも十分かかるよう丁寧に行なう。

雑草はコナジラミ類の生息場所となるため，ハウス内の除草を徹底する。

施設野菜(イチゴ, トマト, キュウリ, ピーマン)

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	イチゴ：やや多い	県下全域
	トマト，キュウリ，ピーマン： 平年並～やや多い	

[予報の根拠]

2月下旬現在，イチゴで平年並からやや多く，促成トマト，促成キュウリ，促成ピーマン，半促成ピーマンで，平年並の発生である。

気象予報によると，向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く、日照時間も短いと予想されることから，ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

発生の少ないうちに，防除を徹底する。

発生した場合は，発病部位を取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤散布は，薬液が乾きにくくなる午後からは行わず，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

薬剤は，十分な量で丁寧に散布する。また，耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	アブラムシ類	発生量： 平年並～やや多い	2月下旬現在，平年並からやや多い発生である。
	ハダニ類	発生量： 平年並～やや多い	2月下旬現在，発生量は平年並であるが，発生地点率はやや高い。
促成・半促成ピーマン	うどんこ病	発生量： 平年並～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間も短いと予想されることから，ハウス内は発生を助長する条件になりやすい。
	斑点病		
	ハダニ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，やや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量： 平年並～やや多い	2月下旬現在，果実に被害を生じさせやすいミナミキイロアザミウマはやや多い発生である。
促成キュウリ	菌核病	発生量：やや多い	2月下旬現在，やや多い発生である。
	褐斑病	発生量： 平年並～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間も短いと予想されることから，ハウス内は発生を助長する条件になりやすい。
	べと病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	アブラムシ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，やや多い発生である。
	ミナミキイロアザミウマ	発生量：やや多い	2月下旬現在，やや多い発生である。
メロン	べと病	発生量： 平年並～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間も短いと予想されることから，ハウス内は発生を助長する条件になりやすい。
	つる枯病		
	菌核病		
春レタス	腐敗病	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年並からやや多い発生である。向こう1か月の天気は降水量が多く，日照時間も短いと予想され，発生を助長する条件である。

水稻の育苗中に発生する病害の対策について

育苗中に発生する病害は、いったん発生すると防除が難しいため、予防的な対策をたてましょう。病原菌に汚染された種子、用土、資材が伝染源となるため、無病の種子を用いるとともに、汚染されていない用土や資材を用いることが必要です。また、育苗中は適正な温度、水管理を行うことが大切です。

1. 病害の種類と対策について

育苗中に発生する病害は、主にいもち病、ばか苗病等の糸状菌（カビ）による病害と、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病等の細菌による病害がある。これらは病原菌に汚染された種子が伝染源となるので、防除には種子消毒が有効である（種子消毒については、病害虫発生予報2月号参照）。

この他、フザリウム菌や、リゾープス菌等の糸状菌による苗立枯病は、病原菌に汚染された土壌や育苗資材が主な伝染源となるので、汚染されていない用土や資材を用いるよう、こころがける。

2. 作業のポイントについて

1) 播種前の作業について

前年使用した育苗箱はよく洗浄し、ケミクロンG又はイチバンで消毒する。

育苗用土は、殺菌された pH4.5～5.5 のものを用いる。自分で用土を作成する場合は pH を調整し、苗立枯病の対策として薬剤を処理する。

薬剤には、育苗用土に混和するもの（ダコニール粉剤、タチガレエース粉剤）と、播種時等に薬液を土壌灌注するもの（ダコニール 1000、タチガレエース液剤、バリダシン液剤 5）がある（平成 20 年 2 月 20 日現在）。

各薬剤の使用については、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項を確認のうえ使用する。なお、後作での薬害や、意図しない農薬が吸収される可能性があるため、薬剤の処理は、他の農作物を栽培する場所では行わない。

育苗ハウス内の水が溜まる部分は、過湿となって、病害が発生しやすくなる。育苗ハウスの床は平らに整地し、育苗箱の下には波形の資材を敷く等、水はけを良くして、水が溜まらないようにしておく。

2) 播種後の管理について

育苗中の極端な低温や高温は、病害の発生を助長するため、育苗ハウス等の温度管理には十分注意する。

出芽時の温度は 28～30 とし、必要以上に高めないようにする。出芽が悪い、ムラがあるからと温度を高めると、もみ枯細菌病等の発生を助長する。均一な出芽のためには、浸種時に適温でじっくり吸水させてからハト胸状態まで催芽（芽出し）して播種することが大切である。

緑化期（出芽揃い～本葉第 1 葉期）までは、昼間 20～25 ，夜間は 15～20 とする。

硬化期は昼間 20～25 ，夜間 10～15 とする。緑化期、硬化期は多湿になりすぎないように注意し、かん水量は夕方にはやや乾く程度とする。

・今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 2月23日から3月22日)

気象庁(2月22日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	30	30	40
日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

天気は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。予報期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。

< 1週目の予報 > 2月23日(土曜日)から2月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 60%

< 2週目の予報 > 3月1日(土曜日)から3月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

< 3週目から4週目の予報 > 3月8日(土曜日)から3月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321

3月上旬 施設野菜病害虫の発生現況と防除対策について

3月下旬 水稻育苗期間中の病害対策について

4月上旬 ナシ病害虫の防除及び麦類の赤かび病対策について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。